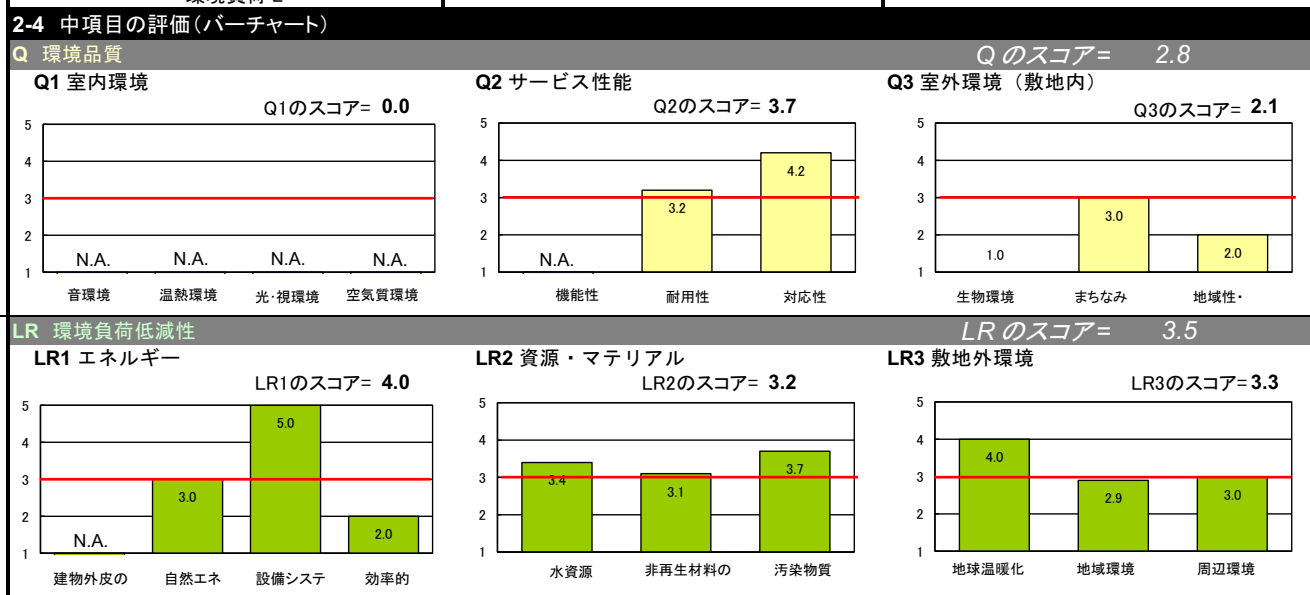
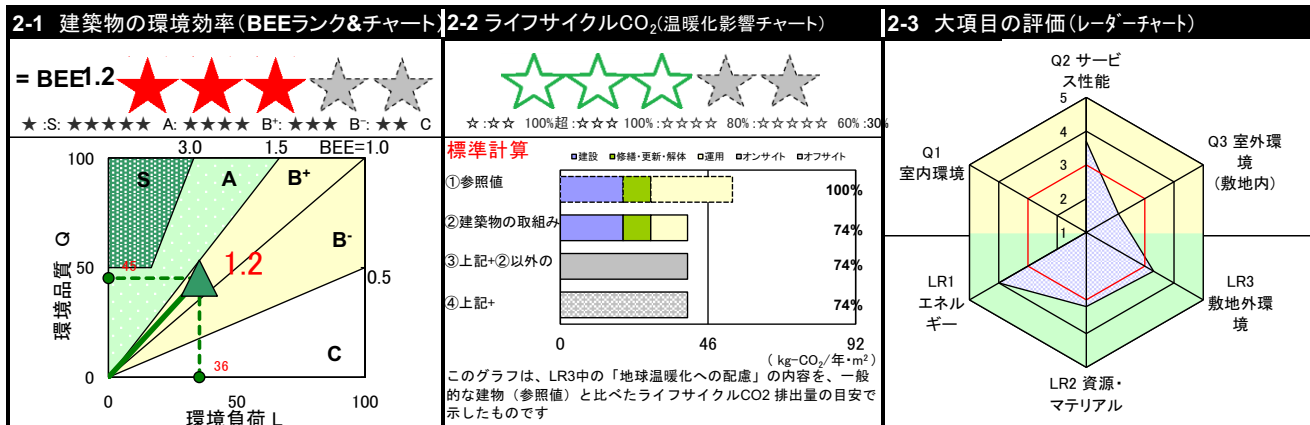


# CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第2019年版、名古屋市長官公署環境政策推進課環境マニュアル2019) 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

## 評価結果

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |                 |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称     | 名古屋市北区ロジ計画            | 階数     | 地上4F            |
| 建設地      | 名古屋市北区六が池町499番1       | 構造     | S造              |
| 用途地域     | 準工業地域、準防火地域           | 平均居住人員 | 30 人            |
| 地域区分     | 6地域                   | 年間使用時間 | 3,120 時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 工場                    | 評価の段階  | 実施設計段階評価        |
| 竣工年      | 2021年12月 予定           | 評価の実施日 | 2020年11月27日     |
| 敷地面積     | 5,620 m <sup>2</sup>  | 作成者    |                 |
| 建築面積     | 3,691 m <sup>2</sup>  | 確認日    | 2020年11月27日     |
| 延床面積     | 11,516 m <sup>2</sup> | 確認者    |                 |



| 3 設計上の配慮事項                                                                        |                                          |                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------|
| 総合                                                                                | その他                                      |                           |
| 敷地周辺部に緑地を多くし、また、駐車場に緑化ブロックを採用して周辺環境に配慮した計画としました。上階の面積を抑え、視覚的な圧迫感や威圧感を軽減する計画としました。 |                                          |                           |
| <b>Q1 室内環境</b>                                                                    | <b>Q2 サービス性能</b>                         | <b>Q3 室外環境(敷地内)</b>       |
| -                                                                                 | 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせました。 | 緑地を設けることにより、良好な景観を形成しました。 |
| <b>LR1 エネルギー</b>                                                                  | <b>LR2 資源・マテリアル</b>                      | <b>LR3 敷地外環境</b>          |
| LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮しました。                                                  | OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしました。     | 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮しました。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

## 名古屋市北区ロジ計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

| 重点項目     |                 | 評価  | 全体に対する<br>重み係数 | 重点項目<br>スコア |
|----------|-----------------|-----|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 |                 |     |                | 3.8         |
| LR1      | エネルギー           | 4.0 | 0.4            |             |
| LR3.1    | 地球温暖化への配慮       | 4.0 | 0.1            |             |
| LR3.2.2  | 温熱環境悪化の改善       | 2.0 | 0.05           |             |
| 2. 自然共生  |                 |     |                | 1.3         |
| Q3.1     | 生物環境の保全と創出      | 1.0 | 0.171428571    |             |
| Q3.3.1   | 地域性への配慮、快適性の向上  | 無   | 0.017142857    |             |
| Q3.2     | まちなみ・景観への配慮     |     |                |             |
| Q3.3.2   | 敷地内温熱環境の向上      | 2.0 | 0.085714286    |             |
| 3. 循環型社会 |                 |     |                | 3.1         |
| LR2.1    | 水資源保護           | 3.4 | 0.06           |             |
| LR2.2    | 非再生性資源の使用量削減    | 3.1 | 0.18           |             |
| LR3.2.3  | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 2.3 | 0.01875        |             |

## 結果

## 1. 温暖化対策

評価点 = 3.8



## 2. 自然共生

評価点 = 1.3



## 3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。